

| | | |
|----|----|----------|
| 学番 | 47 | 県立吉田高等学校 |
|----|----|----------|

令和 7 年度 学校自己評価表（最終評価）

| 学校運営実施報告 | | |
|---|---|--|
| 学校運営方針 | 授業改善と学習意欲向上の取組を通じて、生徒の学力伸長を図り、「進学も就職も、生徒の希望が確実にかなって自己実現できる学校」として支援するとともに、部活動や地域連携の活動等により、活気にあふれた学校づくりを進める。 | |
| 三つの方針(スクール・ポリシー) | | |
| 育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー) | ～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ① 自己を知り、他者を尊重する思いやりの心を育成します。 ② 自らの進路目標をもち、その実現に向けて努力する姿勢を育成します。 ③ 自己の住む地域を知り、地域に貢献し、リーダーと成り得る能力を育成します。 ④ 自ら学び、自ら考え判断し行動できる力を育成します。 | |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) | ～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ① 人権教育、同和教育を計画的、教科横断的に実施するとともに、日頃からグループ学習などで生徒同士の関わりを大切にします。 ② 多様な進路希望を実現するため、基礎学力の定着やキャリア教育の充実を図り、生徒が主体的に学ぶ進路学習に取り組みます。 ③ 地域と連携しながら、ひと・文化・産業などについて深く学び、他者と協働し発展的な思考を育てる活動を行います。 ④ 「わかる授業」の実践に努め、生徒の学習意欲向上と主体的・対話的で深い学びの実践活動を行います。 | |
| 入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー) | ～このような生徒を求めています～ ① 基本的な生活習慣と規範意識を身に付け、他者を尊重することができる生徒 ② 自らの進路実現に向けて努力することができる生徒 ③ 地域を知り、地域を愛し、地域に貢献しようとする生徒 ④ 自ら学び、行動しようとする生徒 | |
| 昨年度の成果と課題 | 年度の重点目標 | 具体的目標 |
| ・教育課程の見直しを進め、令和8年度改訂に向け協議をあげた。また学校行事を見直し令和7年度に向け行事を精選した。 ・いじめ防止基本方針に沿った組織的な対応ができた。今後も生徒理解に関する研修の充実を図っていく。 ・総合的な探究の時間を中心として、燕市や吉田高校サポート協議会と連携し地域を知る活動を積極的に行い、地域貢献する意識を高めた。 ・部活動の継続に課題があり、部活動のあり方を検討していく必要がある。 | スクールポリシーに沿った教育課程の改訂と生徒の学ぶ意欲を高める学習指導の研究 | ・令和8年度入学生からの教育課程の改訂に向け、学習指導の研究を進め内容の充実を図る。 ・積極的なICTの活用などにより、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を行う。 |
| | 生徒指導における一貫した指導体制の推進 | ・基本的な生活習慣と規範意識を身に付け、いじめ防止基本方針に沿って、適切な対応をする。 ・生徒の指導や理解に関する校内研修の充実を図る。 |
| | 地域連携の推進と生徒の進路実現に向けた組織的取組の確立 | ・総合的探究の時間を中心として、燕市や吉田高校サポート協議会と連携し地域を知る活動を積極的に行い、地域に貢献する意識を高める。 ・個別的進路相談を充実させ、生徒の進路実現を支援する。 |
| | 生徒会活動や部活動の奨励および活性化 | ・生徒会活動や部活動への参加を促す。 ・学校行事の活性化を促し、学校生活への満足度を高める。 |

| 重点目標 | 具体的目標 | 具体的方策 | 評価 | | | |
|------------------|---|--|---|---|---|---|
| 教務 | 円滑な学校運営に努める。 | 教育課程を実践する上で効果的な年間行事計画や時間割の作成に努めるとともに、実践の中で生じた諸問題の解決に取り組む。 | A | A | A | |
| | | 行事を含めた様々な教育活動が円滑に実施できるように、他の分掌や学年との連携を図りながら、単位履修に必要な授業時数を確保する。 | A | | | |
| | 地域や保護者との連携を図り、開かれた学校作りに努める。 | 学校ホームページを中心とした様々な情報発信を通じて保護者や地域との連携を深めるとともに、PTA専門部での活動や地域課題探究などで保護者や地域の力を積極的に活用することで、教育活動の充実を図る。 | A | A | | |
| | | 中学生体験入学で模擬授業等により吉田高校の魅力をアピールし、参加者アンケートにおける評価「良かった」が85%以上を目指す。 | A | | | |
| | | 学校ホームページやnoteを積極的に活用し、学校活動の様子について保護者との情報共有を行う。 | A | | | |
| | 図書・視聴覚の環境整備に努める。 | 教育活動を行う上で必要な図書・視聴覚教材や情報機材などを適切に管理し、利用しやすい環境整備を行うとともに、ICT教育の推進をサポートする。 | A | A | | |
| | | 図書館の適切で有効な運営に努めるとともに、様々な情報発信を通じて、図書の有効活用を促す。 | A | | | |
| | 生徒指導 | 様々な講習や講演会を行い、生徒により良い情報を伝える。 | 情報モラル講演会やSNS教育プログラムを実施し、ネット社会でのルールを学び、被害に遭わないこととともに加害者に自分にならないように意識させる。 | A | | A |
| | | | 薬物乱用防止講話を実施して薬物汚染の恐ろしさや、どのように自分に近づいてくるのかを理解させる。 | A | | |
| | | | 交通安全講話や原付バイク安全講習会を通じて、交通安全の重要性と安全への意識を学び、日々気をつけるよう情報を伝えていく。 | A | | |
| ルール遵守と責任感の養成を図る。 | | 頭髮服装検査を年間5回実施するとともに、校則を守るだけでなく、そのルールがある理由を理解させる為にも継続的に指導する。 | A | A | | |
| | | 携帯電話の校内での使用方法について、徹底するよう指導する。 | B | | | |
| | | アルバイトや各免許取得、ヘルメットの着用など、学校の指導方針の周知徹底を図る。 | A | | | |
| | | 登下校の指導や遅刻の防止、挨拶の励行、望ましい身だしなみの定着を図る。 | A | | | |
| 保健指導 | 健康管理や環境美化の意識・能力の向上を図る。 | 1・3年生で性に関する講演会、2年生で歯の講演会を実施し、保健に関する知識の習得や意識の向上につなげる。 | A | A | | |
| | | 校地校舎の日常的な清掃美化指導により、学習環境の維持向上と生徒の衛生意識の向上を図る。 | A | | | |
| 生徒会 | 生徒会活動・学校行事及び部活動の活性化を図る。 | 生徒会執行部を中心として学校行事の内容充実を図り、全校生徒が積極的に取り組めるように改善する。 | A | A | | |
| | | 部活動の取り組みや大会結果をホームページなどで発信する機会を増やし、部活動へ興味関心を持ってもらえる活動を行う。部活動に加入している生徒が継続できるように環境を整える。 | A | | | |
| 進路指導 | キャリア教育を推進し、学習意欲の向上につなげる。 | 『進路のしおり』を活用し、進路実現を図る。 | A | A | | |
| | | 進路集会・ガイダンスを実施することで、生徒が自ら考え行動できるように働きかけをする。 | A | | | |
| | | 進路情報室の資料を一層充実させ、有効な利用方法の指導に努める。 | B | | | |
| | 個別の進路相談を充実させ、生徒が第一希望とする進路の実現を支援する。 | 進学講習・模試受験指導・推薦入試指導などを計画的に実施する。 | A | A | | |
| | | 進路・学年・保護者間で緊密な連携を保ちながら進路指導を行う。 | A | | | |
| | 企業研究・職場見学等を充実させ、就職希望者全員の進路実現を目指すとともに、1次合格率70%の内定を目指す。 | A | | | | |

| | | | | |
|--------------|--|--|---|---|
| 学年 | 基本的な生活習慣と規範意識を養う。自らの進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿勢を育成する。 | (1年) 社会生活のための基本的な生活習慣の確立と基礎学力の定着を目指し学習習慣を確立させる。 | A | A |
| | | (2年) 継続して基本的な生活習慣と学習習慣の確立を目指すとともに、自己の進路を主体的に模索する姿勢を身につけ、進路実現に向けての意識を高める。 | A | |
| | | (3年) 卒業までの見通しを持ち、一人ひとりが自らの進路目標の実現に向けて積極的に行動できる環境を整える。 | A | |
| 道徳・人権教育 | 日頃から様々な経験をとおして、人間としての在り方生き方を主体的に探究する力を養うとともに、他者を尊重する思いやりの心を育成する。 | (道徳) 教科・科目において体験的な学習を重視するほか、ボランティア活動などに参加しやすい学校づくりを行う。 | A | A |
| | | (人権) 生徒及び教職員対象の人権教育、同和教育研修会を全校対象1回実施するほか、学年ごとに1回以上実施する。 | A | |
| 総合学習 探究学習 | 進路探究の一環として地域社会に関連した課題探究を行い、職業観・勤労観を持たせ、主体的に進路選択が行える能力・態度を育成する。 | (1年) 地域社会についての学習を通して自身と社会との関わりを学ぶ機会を設定し、地域についての理解を深め、探究学習の手法を身に付けさせる。 | B | B |
| | | (2年) 地域課題探究の学習を通じて、協働して課題を設定し、解決することができる力を育成する。 | B | |
| | | (3年) 地域課題探究の学習により、地域の課題について提案し、プレゼンテーションなどを通して表現力を身につけさせる。 | A | |
| 国語 | 国語を適切に読み取り、表現する力を身につけさせるとともに、言語文化に対する関心と理解が深まるよう育成する。 | 丁寧でわかりやすい授業を行って生徒の学ぶ意欲を高め、漢字テスト等を継続実施して基礎学力の定着を目指す。 | A | A |
| | | プリントや課題の提出率85%以上を目指す。 | A | |
| 地歴公民 | 日本や世界の基本的知識を習得し、地理的・歴史的思考力を養う。日本や世界の政治や経済、世界的な諸課題を学び、主権者として必要な知識の習得と態度を養う。 | 丁寧でわかりやすい授業を行うため、ICTを活用する。 | A | A |
| | | 協働的な学習場面を設け、生徒の主体的な学びにつなげる。 | A | |
| 数学 | 数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高める。 | 生徒の様子を観察し、対話的で丁寧な授業を心がける。 | A | A |
| | | 提出期日での課題提出率90%以上を実現するために、課題の意義を認識させるとともに質問しやすい環境を整える。 | A | |
| 理科 | 自然の事物・現象についての理解を深め、観察実験を通して、自然の事物・現象を科学的に探求するために必要な | 自然と人間生活を関連付けながら自然科学の知識を身につけさせ、基本的な概念や原理・法則を理解させるよう努める。 | A | B |
| | | 現象を理解し、観察実験などを通じて科学的に探求する力を養い、科学への興味関心を高める。自ら仮説を立てそれを説明する能力を身につけるとともに、学びに向かう意欲を醸成する。 | B | |

| | | | | |
|-------------|--|---|------|---|
| | 資質・能力を育成する。 | | | |
| 保健体育 | 幅広いスポーツの実践や理論の学習を通して、より高い技能及び知識の積極的な習得を図り、健康・安全に関する基礎的知識を育成する。 | 運動を楽しみ、生涯に亘ってスポーツに主体的に取り組む姿勢と社会生活における健康・安全に関する基礎的知識を育成・習得させる。 | A | A |
| | | 課題に取り組む意義を理解させ、課題提出率90%以上を目指す。 | A | |
| 芸術 | 芸術の鑑賞、表現、創作活動をとおして、豊かな心や創造力を育成する。 | 自己のイメージをもって表現を創意工夫できるような課題設定を行い、主体的な学習活動につなげるとともに、互いにその成果を認め合うよう指導する。 | B | B |
| 外国語 (英語) | 基礎的な語彙力や文法力を活用させ、英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 | 積極的にICTを活用し、丁寧にわかりやすく指導する。 | A | A |
| | | 課題提出90%以上を目指す。 | A | |
| 家庭 | 社会人及び家庭人として必要な基礎的教養を習得させ、豊かな人間性を育成する。 | 衣食住、家庭・保育、消費生活と環境など家庭生活についての関心と理解を深めさせ、実習を取り入れた授業を行う。生活の課題を見だし、それを改善するために主体的に実践できる力を育成する。 | A | B |
| | | 生活に活用できる基本的な技術と、子ども文化の継承と創造に必要な基礎的技術を身に付けさせる。食物調理検定、保育技術検定の合格率90%となるよう指導する。 | B | |
| 商業 | 商業の各分野に関する基本的な知識・技能を習得させ、職業人として必要な心構えを育成する。また、資格を活かして商業系大学への進学及び就職を目指す。 | 学習到達度をはかるために各種検定を受検させ、商業に関する基礎的な知識・技能を習得させる。検定合格率が100%になるよう指導する。 | B | B |
| | | ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなど実務に必要なソフトウェアの活用能力を育成する。企業活動を改善する力の向上をめざし、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的に取り組む態度を身に付けさせる。 | A | |
| | | 社会人・職業人として要求させる知識・能力・態度を身に付けさせる。 | A | |
| 情報 | 情報社会の諸問題の発見・解決に向けて、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身につける。 | ICT活用、ワークショップなどを通して、対話的で丁寧な授業を心がける。 | A | B |
| | | 課題提出率95%以上を実現するために、課題の意義を認識させるとともに質問しやすい環境を整える。 | A | |
| | | webデザインやプログラムの仕組みを粘り強く考え、試行錯誤を通じて取り組めるようにする。 | B | |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程については、令和8年度改訂に向け協議を重ねてきたが、より生徒の実態に即した内容とするため、一度取り下げ見直すこととした。 ・いじめ防止基本方針に沿った組織的な対応により早期発見・対応ができた。総点検でもA評価をいただいた。今後は、SST等をさらに取り入れ人間関係づくりのスキル向上を目指し、未然防止に努めていきたい。 | | 総合評価 | |
| | | | | A |

| | | |
|--|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・燕市や吉田高校サポート協議会と連携した活動（企業見学ツアー・模擬面接・総合的な探究の時間での講師依頼等）は定着し、成果を上げている。また、昨年度から始めた「羽ばたけつばくろ応援事業」への参加は、2年目となりより充実した内容で取り組むことができた。・部活動については、昨年度と同様に継続して取り組む生徒の数は減少してきている。中学校でも地域移行が進む中で、今後も生徒が生き生きと前向きに参加できるような部活動の在り方を検討していく必要がある。 | |
|--|--|--|